

ヌートリア・アライグマ 防除マニュアル



鳥 取 県

目 次

| | | |
|---|-----------------------|----|
| 1 | 趣旨 | 2 |
| 2 | 現状 | 3 |
| 3 | 生態と被害 | 7 |
| 4 | 捕獲の方法 ~ 「箱わな」を使った捕獲 ~ | 13 |
| 5 | 被害防止の方法 | 15 |

1 趣旨

地域に本来生息しない外来生物が人為的に持ち込まれることで、その地域の生態系・生活環境・農林水産物に被害を与えるという問題が発生しています。

ヌートリア・アライグマは、このような被害を及ぼすものとして、外来生物法に基づく「特定外来生物」注1)に指定されています。

鳥取県でも、このヌートリア・アライグマの個体数と生息域が拡大しつつあり、被害が発生しています。

ヌートリア・アライグマは繁殖力が強いことから、徹底した対策を進めない限り被害がさらに増加するものと懸念されます。

このため県では、県・市町村・住民等が一体となってその防除を進めるため、『鳥取県ヌートリア・アライグマ防除の指針』注2)を策定したところです。

本マニュアルは、この指針に沿ってヌートリア・アライグマの防除を効果的に進めていくため、生態や被害の状況、捕獲方法など防除技術についてまとめたものです。

注1) 外来生物法に基づく「特定外来生物」

「外来生物法」：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に係る法律

「特定外来生物」：外来生物のうち、生態系などに被害を及ぼすとして定められた生物

特定外来生物は、飼育・保管・運搬・輸入・販売・譲渡・野外に放すことが原則禁止されている。

注2) 「鳥取県ヌートリア・アライグマ防除の指針」(平成20年3月策定)

県・市町村・住民等が一体となってヌートリア・アライグマの防除を推進するため、その必要性と取組方向を明らかにするとともに、外来生物法に基づく「防除実施計画」の策定による地域ぐるみの効果的な防除の推進に必要なガイドラインを示したもの。

ヌートリア・アライグマの問題は、人の無責任から発生したのですが、かわいいそうということだけでは問題は解決しません。現状は農作物被害・生活被害に悩む地域住民があり、捕食されたり駆逐されてしまう多くの在来種がいます。

このままでは、捕獲を必要とする個体の数が増え続け、防除に長い年月と多くの費用・労力が必要になり、その間に被害を受け続けることとなります。

できる限り早期に排除することが、処分される個体の数が少なく済み、防除に要する費用・労力の負担も軽減することができます。

負の遺産を次の世代に引き継がないよう、地域ぐるみで防除に取り組むことが必要です。

ヌートリアの捕獲数は、平成19年度で、838頭に達しています。

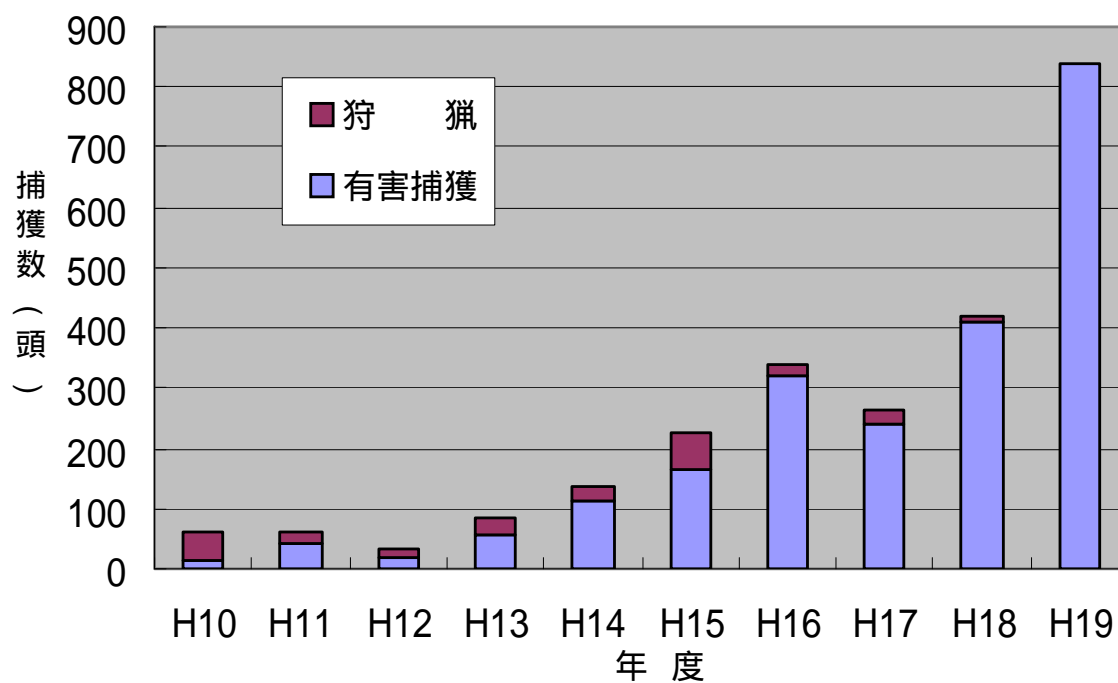


図3 ヌートリアの捕獲数の推移

【アライグマ】

アライグマは、県東部の鳥取市・岩美町・八頭町で、捕獲・ロードキル・目撃があり、急速に生息域が拡がりつつあるとみられます。

ロードキル：動物が道路上で車に轢かれる減少

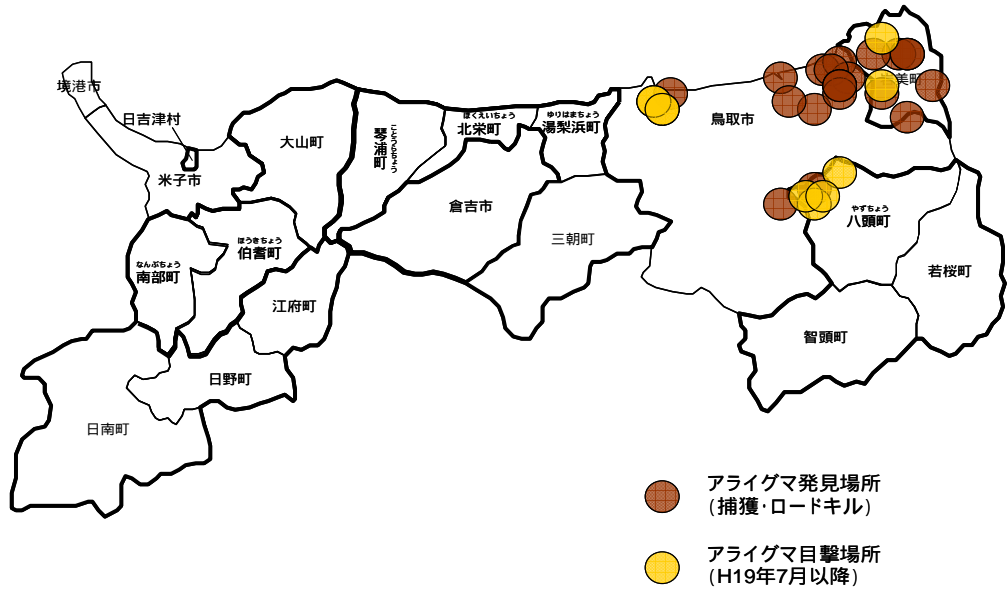


図4 アライグマの生息状況

(H19年12月末現在)

アライグマの捕獲及びロードキルによる個体は、平成19年度(12月末)で、18頭と急増の兆しがみられます。

アライグマによる農業被害は報告されていませんが、ブドウを食害している痕跡が確認されています。

また、廃屋に侵入したり、民家のコイを捕食する被害が報告されています。

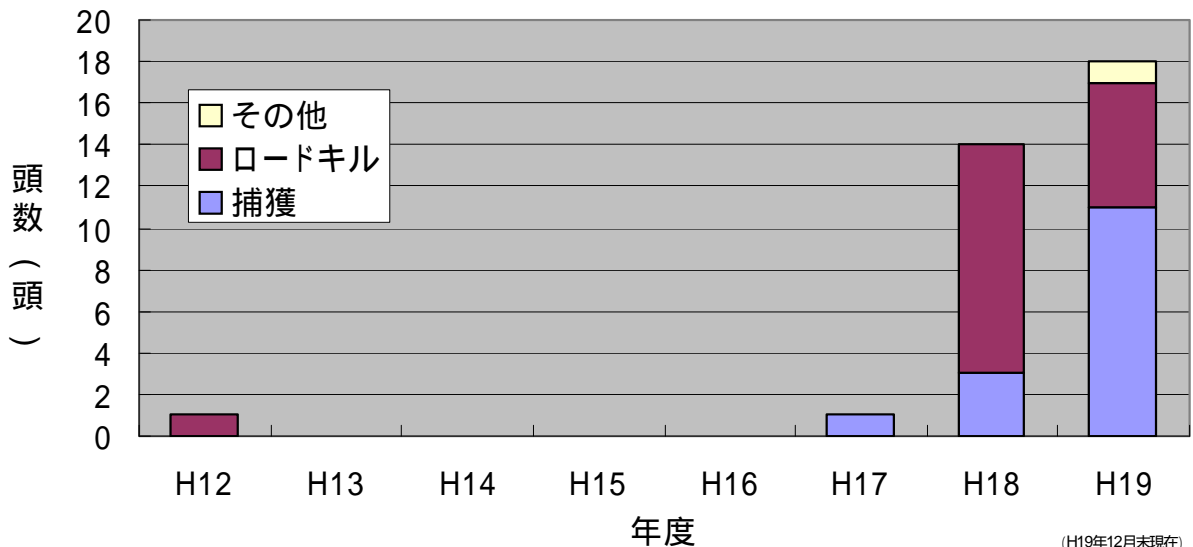


図5 アライグマの捕獲・ロードキル個体数の推移

(H19年12月末現在)

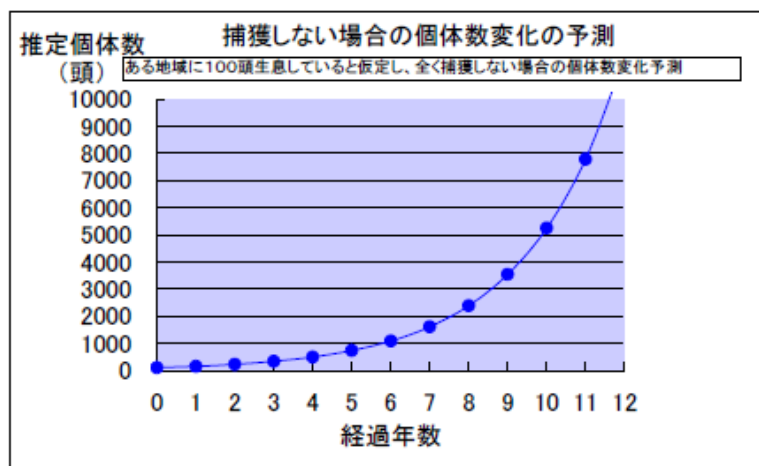
《 参考 》

ヌートリア・アライグマの捕獲が十分に行われなかった場合、個体数は急増を続けます。残った個体が繁殖源となることから、「地域からの完全排除」を目指した徹底捕獲が必要です。

【アライグマの生息頭数変化の予測】 ある地域の生息頭数を100頭と仮定した場合

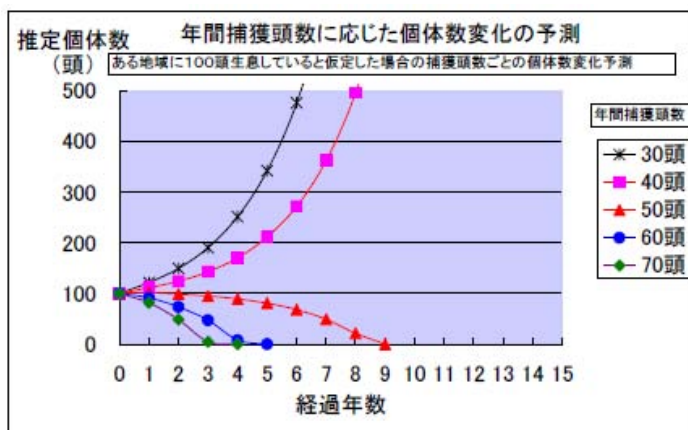
アライグマを全く捕獲しない場合の個体数変化の予測

初年度100頭が10年後には5千頭余り、12年後には1万頭を超える。



アライグマを毎年一定量捕獲した場合の個体数変化の予測

- ・初年度100頭のアライグマを毎年一定量捕獲した場合、30～40頭の場合は増加の一途をたどり、50頭捕獲で9年後、60頭捕獲で5年後、70頭捕獲で4年後に0頭になる。
- ・従って、早期に発見し、早期に対策を取る方が、捕獲総頭数、投資経費、農業被害、生態系被害が抑制される。



(資料) 兵庫県アライグマ防除指針より抜粋

3 生態と被害

【ヌートリア】

原産地 南アメリカから毛皮用として移入

形態 ドブネズミに似る。前歯(門歯)がオレンジ色。後ろ足に水かきがある。
(体重) 6 ~ 9 k g (頭胴長) 50 ~ 70 c m (尾長) 35 ~ 50 c m



ヌートリアの後脚(水かきがある)



ヌートリアの前歯

食べ物 草食性で水辺の植物(茎・地下茎)を食べる。
ドブガイを捕食するなどの報告例もある。

すみか 河川・水路・池沼・ため池などの周辺に巣穴を作って繁殖。



ヌートリアの巣穴

行動特性 基本的には夜行性であるが、昼間でも活動が観察される。陸上での動きは緩慢だが、泳ぎは得意で水棲生活に適応。主に家族単位で生活。



川を泳ぐヌートリア
(顔や背中が水面に出る)



家族で行動するヌートリア

繁殖 3カ月～7カ月ほどで性成熟。
決まった繁殖期はなく、年間2～3回繁殖。
1回に平均6～7頭を出産。多い場合では1回に12頭程度を出産。

痕跡 カモに似た水かきと爪のある足跡を残す。
水路からの上り口に、草が倒れ、泥が付着した通り道ができる。
5cm程度のラッカセイに似た糞を水中や水際にする。



ヌートリアの足跡(前脚)
(前脚の親指は小さく、通常4本の指跡が残る)



ヌートリアの足跡(後脚)



ヌートリアの糞
(ラッカセイの形に似る)



水に浮くヌートリアの糞
(排泄直後は水に浮く)

被害

農業被害 水路沿いに移動するため、イネの被害が最も多い。
水辺近くで栽培されているスイカ・ブロッコリー・ダイコンなどを食害する。



ヌートリアによる水稲被害（全景）
（水路近くで被害が集中）



ヌートリアによる水稲被害
（主に茎の部分が食べられる）



ダイコンの食害
（地上部の根と茎が食べられる）

生態系被害 水辺の植生（希少種を含む）に被害
トンボ類など水辺の植物に依存する昆虫等に影響
ドブガイなどの二枚貝等に被害



ドブガイを食べるヌートリア



ヌートリアに食べられたドブガイ

その他 堤防・土手などに穴を開けるなどの被害
人畜共通感染症の危険性（げっ歯類は様々な病原菌を保有する可能性あり）

【アライグマ】

原産地 北アメリカからペットとして移入

形態 タヌキによく似るが、尾の縞模様や眉間の縞、5本指の足跡などで見分けられる。

(体重)6~10(15)kg (頭胴長)40~60cm (尾長)20~40cm



アライグマの牙



アライグマの前脚
(手の平と長い指があり、
器用に餌が取れる)



アライグマの後脚
(人の足の裏のように細長い)



アライグマの尻尾
(縞模様が特徴)

食べ物 雑食性で、小型ほ乳類、小鳥のヒナ・卵、魚、両生類、昆虫、果実など。

すみか 他の動物が掘った穴、木の洞などのほか、住宅の屋根裏、物置などに侵入し繁殖。

行動特性 夜行性で、森林や湿地帯から市街地まで多様な環境に生息。
一般的には水に近い場所を好む。



水路を移動するアライグマ

繁殖 1年ほどで性成熟。2歳以上は妊娠率が高い。
通常は春（3～6月頃）に1回出産。
1回に平均3～4頭を出産。多い場合では1回に6頭程度を出産。

痕跡 足の裏と5本の指と爪跡が明瞭に残る。
糞はイヌに似る。糞には、植物の葉や種子、動物の骨や殻が含まれやすい。



アライグマの足跡

（左：後脚、右：前脚、手の平と長い指、爪痕が特徴的）



アライグマの前脚



アライグマの糞

被害

農業等被害 ナシ、ブドウ、トウモロコシ、スイカ、メロン、イチゴ等の農作物、養魚、養鶏などに被害。



ナシの食害（枝や葉ごとナシをもぎ取る）



ブドウの食害

（袋を上から破り、房から粒を外して木の上で食べる）



スイカの食害（くり抜いて中身を食べる）



トウモロコシの食害（皮をむいて食べる）

生態系被害 雑食性で幅広い食性があり、多種多様な野生動植物を食べる。
タヌキなど在来種を駆逐。
国内にアライグマの天敵は知られていない。

生活被害等 家屋に被害（糞尿・破損・騒音など）
家屋をすみかにすることが多い。

人や飼育動物への噛みつき。
鋭い歯があり、成獣は気性も荒い。

感染症媒介のおそれ（アライグマ回虫・狂犬病など）

4 捕獲の方法 ～「箱わな」を使った捕獲～

捕獲する条件

外来生物法に基づく「防除実施計画」の捕獲従事者に登録された者が計画に基づいて捕獲する場合（通年）

狩猟免許(狩猟登録)がある者が、狩猟期間(11/15～2/15)に捕獲する場合
狩猟期間(11/15～2/15)以外は、狩猟免許(狩猟登録)がある者が市町村長の有害捕獲許可を受けた場合

【ヌートリア】

箱わな 壊れにくいもの・小型の個体でも蓋が閉まりやすいもの・
軽くて持ち運びやすいもの（処分時にも有用）

設置場所 ヌートリアが水路から上がる場所、巣穴周辺に設置する。

目撃情報・被害情報・通り道の跡（草が倒れた跡）・足跡・糞・食跡などから場所を特定する。

餌 ニンジン・サツマイモ・ブロッコリー・スイカ・リンゴなど



箱わなの設置場所（水辺の上り口に仕掛ける）



ヌートリアの通り道



箱わなを設置する（わなの状態をチェック）



箱わなに近づくヌートリア
（寄せ餌でヌートリアを引寄せると）



捕獲されたヌートリア

比較のおとなしいが、大きな門歯があり、
噛まれないように注意する。

【アライグマ】

- 箱わな** 特に頑丈で壊れにくいもの・小型の個体でも蓋が閉まり易いもの・軽くて持ち運び易いもの（処分時にも有用）
- 設置場所** アライグマの通り道、家屋への侵入口の近くに設置する。
目撃情報・被害情報・足跡・糞・食跡などから場所を特定する。
- 餌** キャラメル味のコーン菓子やピーナッツバターを塗ったクラッカーなど、甘くて油の匂いの強いもの
錯誤捕獲を避けるため、ドッグフードやソーセージ等は使わない。



箱わなの設置場所（家屋の侵入口や通り道）



家屋への侵入口
（毛や泥が付着する、爪痕が残る場合がある）



捕獲されたアライグマ
鋭い歯があり気性も荒いため、
噛みつき・引っかきに注意する。

[捕獲上の注意事項](ヌートリア・アライグマ共通)

- 箱わなは、原則として1日1回以上の巡視を行う。
- 寄生虫・感染症等の可能性があるため、箱わなの取扱い時は「革手袋」を使用する。
- 捕獲個体は、原則としてできる限り苦痛を与えない方法で処分する。
- 処分個体は、ゴミ処理場等で焼却するか、止むを得ない場合は適切に埋却する。
- 尿や糞などによる汚染に注意し、作業終了後は石けんでよく手を洗う。

5 被害防止の方法

【ヌートリア】

被害の予防 ～ 誘引物の除去 ～

餌付けをしないこと
餌になる物（クズ野菜・生ゴミなど）
を放置しないこと
水辺近くの草を刈り払い、隠れ場所・侵入
ルートを少なくする。



水辺近くでのクズ野菜の放置
（ヌートリアを引き寄せる）



水辺近くの草地の刈払い

侵入の防止

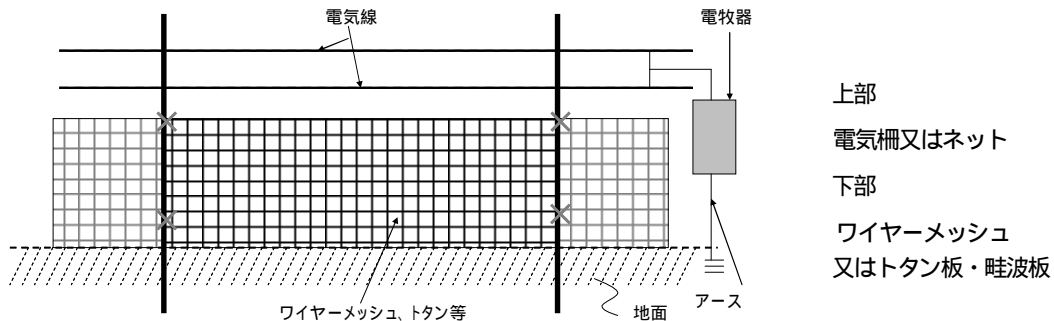
「シシ垣くん」タイプの複合柵やトタン柵を設置

シシ垣くん：ワイヤーメッシュ柵などの防護柵の上部に、塩ビ管など着脱自在な絶縁性の支柱を取り付け、この支柱にダブルクリップなど簡易に接続可能な導電性の碍子を用いて電気線を配線した柵。上部をネットに替えることも可能。

上部は、「電気柵」又は「ネット」を使用。電気線の上下の間隔は10cm前後（要調整）

下部は、「ワイヤーメッシュ」又は「トタン板」・「畦波板」を使用

「ネット」・「ワイヤーメッシュ」の格子（目）の大きさは5cm程度より狭いものを使用



「シシ垣くん」タイプの複合柵

柵は、集団で設置するのが侵入防止効果が高く、かつ経済的

【アライグマ】

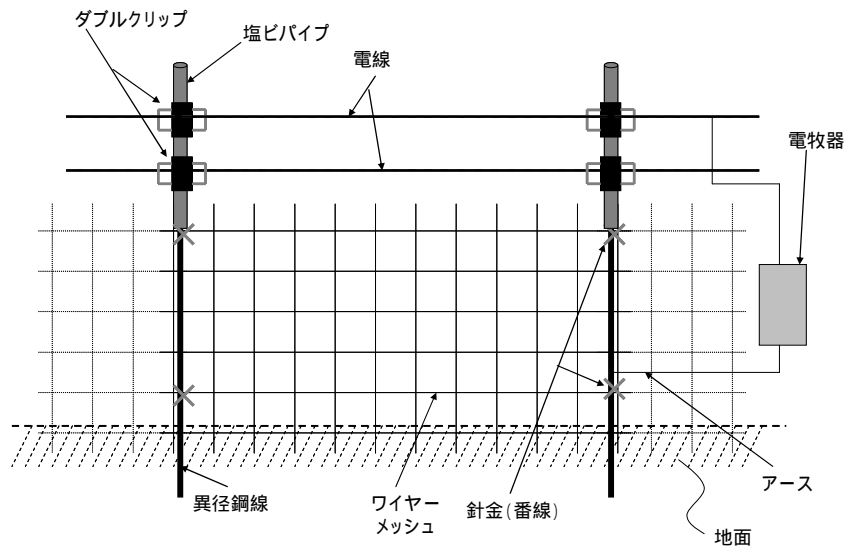
被害の予防 ~ 誘引物の除去 ~

- 餌付けをしないこと
- 餌になる物（クズ果樹・クズ野菜・生ゴミ・ペットのエサなど）を放置しないこと
- 採り残した果樹や野菜は、早期に除去すること
- ゴミ集積場の生ゴミが食べられないよう管理を十分に行うこと

侵入の防止

シシ垣くん（猪・熊タイプ）などの複合柵を設置

ワイヤーメッシュを使う場合、格子の大きさは5 cm程度とする。
電気線の上下の間隔は、10 cm前後とする。



シシ垣くん（猪・熊タイプ）



シシ垣くん（猪・熊タイプ）



「シシ垣くん」タイプの複合柵
上部 電気柵 下部 ワイヤーメッシュ

柵は、集団で設置するのが侵入防止効果が高く、かつ経済的